

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月23日

【評価実施概要】

事業所番号	2572300081
法人名	三雲ケアサービス株式会社
事業所名	グループホーム三雲
所在地	滋賀県湖南市三雲ナガレ69番地 (電話) 0748-72-3004

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年9月10日	評価確定日	平成20年10月30日

【情報提供票より】(平成20年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算 3,85 人	

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	2 階建ての	2 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	33,000 円	
敷 金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 300,000 円 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	300 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8 月 20 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2		5 名	
要介護3	0 名	要介護4		2 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 87.5 歳	最低 78 歳		最高 96 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	生田病院・芦田歯科医院・小川心療所
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR草津線三雲駅より、徒歩5分のところにあるホームは緑に囲まれた静かな住宅地の中に佇んでいます。民家を上手に改造し、暖かい気持ちになれるホームです。居室入口のバリアフリー化など安心して生活出来る様配慮がされています。広々とした玄関先には、陶器でできたホームのマスコット犬が迎えてくれます。活気あるリビングで集う利用者は、楽しくお話ししながら職員と一緒に献立を立てたり、食事の準備や片付けに取り組むなど、互いが協働しながら和やかに過ごされており、生き生きとした笑顔の絶えないホームです。理念「心生き生き、心たのしく、その人らしく」をモットーにして職員は、日々ケアに取り組まれています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価において課題であった、同業者との交流を通じた向上については淡海グループホーム協議会に参加し交流を実施しています。また、ホームの行事である餅つき大会に地域の住民に参加してもらっています。家族へのアンケートの実施については、職員全員で話し合い、取り組まれています。現在は継続中です。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、全員で取り組み話し合い、管理者がまとめています。結果を基に職員で話し合いを持ち改善について検討しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2~3ヶ月に1回開催しています。自治会長・地域包括支援センター・民生委員・家族代表・利用者代表・ホーム職員が参加し、グループホーム三雲の取り組み、意見交換、要望、助言等を頂きサービス向上に活かしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置し、また、面会時に、家族等と話す機会を持ち意見などを伺っています。たびたび面会に来れない、家族等には、電話で話す機会を持ち、意見等の把握に努めています。また、家族が集う時に意見が述べられるように配慮しています。毎月の請求書送付時に入居者の状態や様子を書いた手紙を同封しています。アンケートの実施に取り組みましたがまだ実行できていません。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会し、地域の夏祭りにも参加するなど、積極的に取り組んでいます。散歩に出かけた時など、地域の方が声をかけてくださり、自宅まできた野菜や花などを頂くなど、地域住民との関係が築かれてきています。また、ホームの餅つき大会に地元の方々に参加してもらいました。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	”心生き活き、心たのしく、そのひとらしく”をホームの理念として、職員は、その人らしく暮らし続けるために、一人ひとりが持つ力が発揮できるように支援しています。しかし、住み慣れた地域で暮らし続けていくことが理念からは読み取ることが出来ません。	○	入居者が住みなれた地域の中でその人らしく暮らし続けることができるように支援していく事が求められています。職員全員で地域密着型サービスについて話し合い、理念がつくられる事を期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、目にとまりやすい玄関やリビングに掲示し共有を図っています。日々のケアの中で、理念に基づく取り組みを実施することを目指しています。しかし、理念を共有し全員が同じ意識を持つための具体的な取り組みが必要です。	○	理念について、職員全員で話し合い、具体的なケアについて職員全員が共通の認識を持ち、理念に沿ったケアが実践される事を期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、地域の夏祭りにも参加しています。散歩に出かけた時など、地域の方が声をかけてくださり、自宅までできた野菜や花などを頂くなど、地域住民との関係が築かれてきています。ホームの餅つき大会に地域の住民が参加しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で課題があげられた、同業者との交流を通じた向上については淡海グループホーム協議会に加入し交流を図っており、改善しています。他の課題については、現在改善中です。今回の自己評価は、全員で取り組み話し合い、管理者がまとめています。結果に基づいて職員で改善について話し合いを実施しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に1回開催しています。自治会長・地域包括支援センター・民生委員・家族代表・利用者代表・ホーム職員が参加し、グループホーム三雲の取り組み、意見交換、要望、助言等を頂きサービス向上に活かしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム開設時より、協力を得ていて、ホームの考えや状況を把握して頂いているので、問題解決にむけて相談しやすい関係が築かれ、サービスの質の向上に向け連携が図られています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	前回の評価で、手紙の書式についてアドバイスを受け、暖かい形式に改善しています。担当者は、個々の利用者別に、毎月、お便りを発行し、内容も、暮らしぶりや素敵な写真を添えて作られています。家族等に毎月、お便りと金銭管理表を同封し送付しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時に、家族等と話す機会を持ち意見などを伺っています。たびたび面会に来れない、家族等には、電話で話す機会を持ち、意見等の把握に努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単独ホームのため、移動の心配はありませんが、職員の離職があれば、不安を与えないように心がけています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、職員全員が交代で参加し全員が年間に1回は参加できる様配慮しています。また、受講報告書を作成し資料と一緒に回覧しています。また、三雲地域での、訪問研修にも参加していますが、ホームとしての年間計画が立てられていません。今後、内部研修にも取り組んで行く予定です。	○	年間研修計画を立て、習熟度に合わせた外部研修・内部研修の研修受講体制を作り職員の質の向上に取り組まれる事を期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	消防法による、スプリンクラー設置の義務付けが決められている中で、淡海グループホーム協議会に加入の29ホームが、各グループホームへの助成を求めするために、連携を図り署名2000名を集め滋賀県庁に申請し改善に向けて取り組まれたり、研修や講演会が開催され、サービスの質の向上に取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族等に見学に来て頂いたり、介護保険を利用して1週間の体験入所を実施しています。体験入所のまま、利用状況によっては、継続して入所となる場合もあります。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の体験や経験を活かしたことを日々のケアの中に取り入れています。例えば、調理方法等、地元の昔からのやり方を若い職員に教えてもらいながら調理しています。お互いに支えながらの生活を大切にしています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で、コミュニケーションを通して思いや意向を把握するように努めています。意志疎通が難しい場合は、昔の生活歴や家族からの情報を得ながら日々の生活の中から思いを汲み取れるように支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンス会議において、利用者の意向や状況を把握する為、1週間前に職員にアンケートを渡し、ケアマネジャーがまとめています。家族には電話で意向等の確認を行っています。往診医と看護師・職員とが連携を図り医療面への情報の共有を図り介護計画に反映させています。センター方式の取り組みも継続中です。	○	早急にセンター方式への移行を完成し、十分なアセスメントから、入居者のニーズを引き出すことが求められる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリングを行い担当者会議を開催し見直しを行っています。状況に変化があれば、ケース会議で、話し合い検討し、家族等にも意向を伺い、随時介護計画の見直しをおこなっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族がホームで、宿泊し利用者と過ごせるように配慮したり、また、家族だけで、温泉に行けるように手配し、家族の絆を大切に見守っています。医師より、入院の指示があっても、家族がホームでの介護を求められる場合は、家族の意向に沿って、医師・看護師・職員の連携のもとで利用者の支援に取り組んでいます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、かかりつけ医について説明し、話し合いにより決めています。月1回、主治医の往診があり、緊急時には、24時間対応が可能です。主治医と看護師の連携が密となり安心した医療体制が気付かれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針を作成しており、入居時に説明し家族等から同意書を頂いています。その時には再度確認を行っています。ホームは、自宅という思いの中で、終末を迎える利用者があれば、話し合いにより受け入れが可能になるよう、医療面では、主治医・看護師の協力体制ができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の暮らしの中で、言葉がけに配慮したケアに取り組まれています。問題がある場合には、具体的に管理者から注意を促しています。個人情報、鍵のかかるロッカーに保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、起床時間・就寝時間の強制はしていません。散歩や買い物も行きたいときに行けるようにしています。日々の暮らしの中でも、利用者の意向に沿うように、声かけして支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、職員と利用者が相談して献立を決め、食事の準備、片付けなど出来る事を皆で取り組んでいます。食材は、業者より配達され、不足があれば買物に行っています。月に一回、皆で外食に出かけ、食事を楽しんでいます。入居者のエプロンの使用をやめて家庭らしい食事の雰囲気です。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前から就寝の間で自由に入浴できるようになっています。シャワーを利用し汗をかいてもすぐ対応できるようになっています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族からの情報や、日々の暮らしの中から把握し、畑仕事や調理、洗濯物たたみ、掃除等一人ひとりの持つ力を引出し、力を発揮できるように支援しています。センター方式を利用していますが活用までには至っていません。	○	センター方式の生活暦を活用し、更に細かい生活暦を把握し、記録を更新し常に新しい情報を活用した支援が求められます。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の協力により、外出しやすいように、駐車場の広場に階段が作られ出入りしやすくなっています。その階段を使って近隣の散歩に出かけています。また、毎日、駅前まで、ごみ捨てに行ったり、買物にも行っています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、門や玄関は常時、開錠されていて、利用者は、自由に出入りできるように支援しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年より、地域の協力を得るよう体制づくりをしていましたが実施するまでには、至っていません。今年は、年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施します。11月には、夜間を想定した避難訓練を実施する予定です。運営推進会議の場や自治会長に夜の火災について話し合い協力を求めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の水分摂取量や食事量を記録して職員が情報を共有していますが食事量の記載方法が全量摂取で○、半分摂取で△と大まかな記載方法です。利用者の状況により食事形態への配慮がなされていて、見た目を大切にしながら、きざみ食の対応を心がけています。栄養バランスのチェックは実施されていません。	○	食事量の大きな記載方法では、○印。△印などを使用していますが、日々の身体状況を把握するには10段階に分類すると把握しやすくなります。食事量の記載方法の工夫を期待します。また、栄養バランスのチェックを保健士や栄養士に依頼し、定期的にアドバイスをもらい栄養摂取量を把握する取り組みに期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改造して造られたホームはこじんまりと機能的に建てられています。リビングや階段に利用者の作品等や季節を感じさせるものが飾られ家庭的な共用空間となっています。家具や調度品等も家庭的であり落ち着いた雰囲気を醸し出しています。リビングからは外の景色が見え、季節の変化が感じられ、ゆったりと過ごせる利用者の集う場所となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、使い慣れたものを持参していただくように説明しています。利用者の暮らしに合わせ、ベット、箆笥、テーブル、椅子、姿見、テレビ、仏壇等、家族の写真、人形等を持参し、居心地良い居室空間が造られています。		